

2022年合格目標 オリエンテーション講義 (小野講師)

本講義は、2022年合格目標コースの本講義に入る前の「オリエンテーション」です。
これからの学習内容や学習方法など、合格に向けた情報をお伝えしていきます。

↓資料を請求する↓



↓インターネットで申し込む↓



講義録レポート

講義録コード

02-22-3-S03- 01

講 座	公認会計士	科目①	オリエンテーション
目標年	2022年合格目標	科目②	
コース	入門・基礎期	回 数	1 回
		通算回数	1 回
用 途	ビデオブース ・ 集合DVD WEB通信 ・ DVD通信 ・ 資料通信 ・ DL通信		

収録日	2020 年 3 月 20日			
講師名	小野 友輔 講師	内 訳	板書枚数	3 枚 ※レポート含まず
			補助レジュメ枚数	枚
			その他	枚

講義構成	前半 5 6 分 → 後半 3 4 分		
実施テスト	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無		
対応テスト	<ミニテスト>	() 第	回
	<答練・演習>	() 第	回
使用教材	オリエンテーション レジュメ		
配布教材	オリエンテーション レジュメ		講義録添付 (有 <input checked="" type="radio"/> 無)
			講義録添付 (有 ・ 無)
			講義録添付 (有 ・ 無)
備考			

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。

T A C 公認会計士講座

～memo～

ますます広がる！ 公認会計士のビジネスフィールド

近年高まる多様なニーズから、財務会計に精通し、監査業務という企業の社会的信用を支える公認会計士は、その業務の幅をますます広げています！

公認会計士のさらなるメリット

公認会計士は、登録をすることにより、

- 税理士・行政書士** の資格を取得することができ、
- 税理士・行政書士** の独占業務も行うことができます。

会計知識を活かす！ 企業を内部からサポート

一般事業会社への就職にも強い！

経理・財務業務

公認会計士が持つ高度な会計・財務知識は、企業において中枢部とも言える経理・財務部門でまさに必須の知識です。企業の内部から、連結財務書類の作成や新会計基準への対応等、体系的な知識を活かすことができます。

一般事業会社への就職にも強い！

IR (インベスター・リレーションズ)

IRとは、企業が株主や投資家等に対して、公正な企業情報を適時に、そして継続して提供する活動のことです。IR担当者には、管理会計に精通し、かつ分析力や表現力といったものが問われますが、公認会計士の持つ知識やスキルは、これらの要求を十分にクリアするものです。

ニーズ大！

IFRS (国際財務報告基準) 関連サービス

IFRSとは、世界的に多くの国が採用している会計処理のルールのことです。日本でも任意適用企業の拡大が続いています。各国の対応速度に差はあるものの、着々とIFRSへの統合が進んでいる中で、会計の専門家である公認会計士の活躍できる新しいフィールドも広がっています。

ニーズ大！

株式公開支援 (IPO)

独自の技術やノウハウを持った将来性のあるベンチャー企業等の株式公開支援を行うとともに、その企業の成長をサポートしていきます。証券取引所への新規上場数は、2009年度から増加傾向にあり、会計士に対するニーズも高まっています。

監査経験 企業を外部

ニーズ大！

M&A

ある会社を買収するにあたって、被買収会社の財務内容をチェックしたり、商品別損益や商圏別損益の情報を把握すること等により、買収先企業と、買収を望む企業とのマッチングを図ります。

Trust サービス

近年企業では様々な経済活動を行う基盤としてITの果たす役割が大きくなっています。このような状況で、公認会計士は、企業のITの信頼性を保証する「Trust サービス」を提供し、社会からのニーズに応えています。

をを活かす！ からサポート

ニーズ大！

コンサルティング (MAS)

会計・財務に関する専門知識や経験、企業経営の豊富な情報を活かし、企業の経営全般にわたる助言や指導を行います。より高品質なコンサルティング・サービスで企業経営をサポートし、企業のあるべき姿をともに考え、実行まで支援するMAS業務へのニーズが近年急速に増えており、今後ますます有用な業務となるでしょう。

税務業務

法人税法、所得税法、消費税法等多くの税法が存在するため、複雑多岐にわたる税務処理についての相談を受ける等、企業経営を側面からサポートしています。近年では国内に留まらず、企業の海外進出に対応して、国際税務サービスも重要になっています。

日本経済を支える会計のプロ！

監査法人

財務諸表監査

独占業務

財務諸表監査とは、企業等が作成する貸借対照表等の財務諸表が、その企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているか否かを、独立した第三者的な立場で判断し、意見を表明する一連の作業のことです。企業等にとって最も大切な「社会的信用」を支えています。公認会計士が監査を行うことにより、企業を取り巻く利害関係者は信頼性の高い情報を得ることができ、様々な取引を安心して行うことができるのです。

内部統制監査

内部統制監査とは、企業等において、リスク管理や業務分掌、意思決定ルール等、経営目標を達成するために構築した内部統制システムについて、その機能の状況を確認し評価するものです。このような内部統制システムが本来どうあるべきか、正しい知識を持つ公認会計士だからこそ、これらを確認・評価し、適切な助言を行うことができます。

一国一城の主 独立開業・起業

自ら会計事務所を開設したり、コンサルティング会社を興したりと、経験・知識を活かして独立し、活躍している公認会計士の方も多数いらっしゃいます。

合格実績

TACの強み

7つの強み

合格者講師

会計士の魅力

試験制度

合格実績

TACの強み

7つの強み

合格者講師

会計士の魅力

試験制度

TACのコース一覧

コース選択のPOINT 1

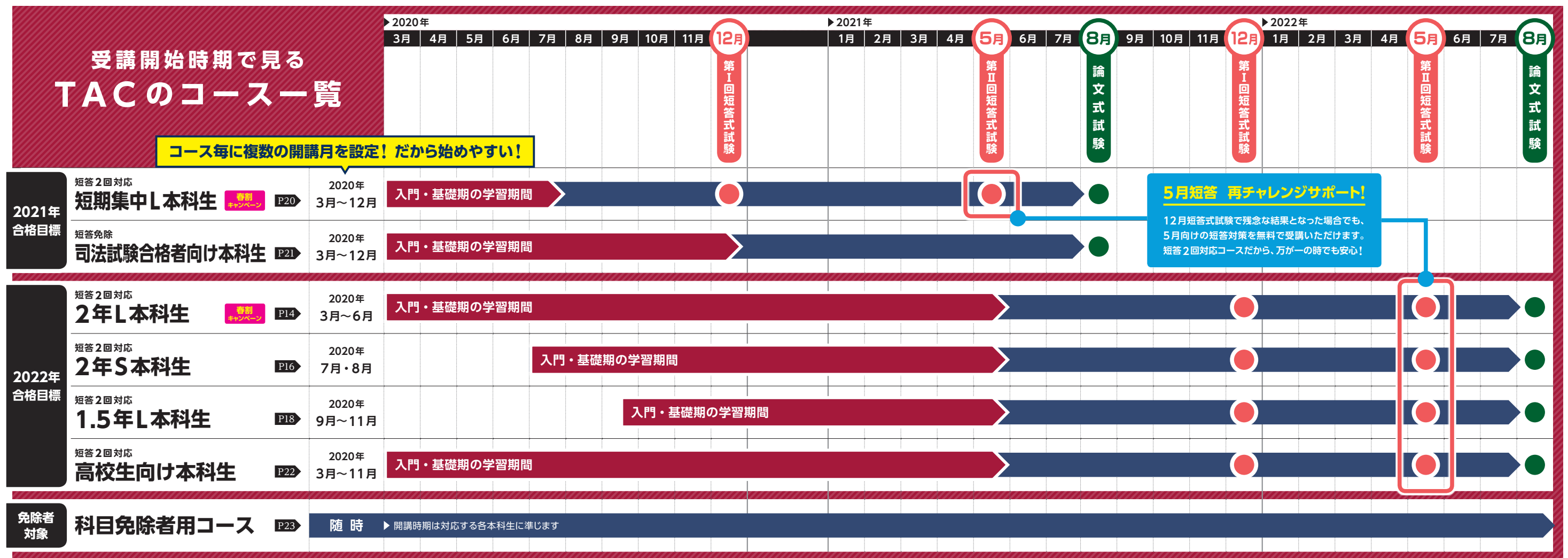
受験環境にあったコース選択が合格への最短ルート！

合格目標年度を決めるにあたっては、**ご自身の受験環境に合った目標設定を行うことが大切です**。学業の忙しい大学生や、働きながら目指す社会人の方は、ロングスパンのコースを選択することが基本です。

コース選択のPOINT 2

入門・基礎期の学習期間をしっかりと確保！

本試験問題の7～8割が入門・基礎期で学習する内容から出題されます。また上級期の講義は、入門・基礎期の学習を踏まえて講義を展開していきます。**一発合格するためには、土台となる入門・基礎期の学習内容をしっかり習得することが重要です！**



コース選択 Q&A

Q.1
何を基準にコースを選択すれば良いですか？

A. まずは論文式試験の受験年度を決めましょう
目標とする受験年度によって、学習ペースは大きく変化します。短期合格を目指すのであれば2021年合格目標を。ゆとりをもって学習するのであれば、2022年合格目標を選択するのが良いでしょう。1週間あたりの講義数の目安は、各コースページをご参照ください。

Q.2
各コースの違いは何ですか？

A. 学習期間が異なります。カリキュラムは同一です
各コースの学習内容・講義回数・教材等は同一です。早く開始するコースの方が、入門・基礎期の学習期間を長く確保できるため、ゆとりを持って学習できます。入門・基礎期終了後の5月以降は、上級期へと進み同一スケジュールとなります*。

簿記レベルとは？

TACではご自身の簿記・会計知識に応じてA～Dの開始スタートレベルを選べます [P25]
簿記知識がない方でも、Aレベルから開始すれば安心して学習できます。

*短期集中L本科生は異なります。

2022年論文合格目標 短答2回対応

学校や仕事と両立しやすいロングコース！

2年L本科生

入学時期 2020年3～6月 受講期間 約2年2ヵ月 総講義数 約320回

ポイント
Point

春割キャンペーン

受講料 ¥70,000 割引 実施中！

2020年春から公認会計士を目指すみなさんをトコトン応援します！新生活がスタートするこの時期だからこそ、学習を始める絶好の機会です。TACで幸先の良いスタートを切ってください！

<キャンペーン期間> 2020年2月19日(水)～6月1日(月)

学生から社会人まで、
安心のロングコース

「2年L本科生」は、学校や仕事と両立しながら合格を目指すTACのスタンダードコースです。学習期間を長めに設定しているので、土台となる「入門・基礎期」で学習する論点を確実に習得できます。

年2回実施の
短答式試験に完全対応

12月の第I回短答式試験で合格すれば、論文式試験での一発合格の可能性を高めることができます。また、思うような結果が得られなかった場合でも、「5月短答再チャレンジサポート」で短答対策を無料で受講でき、安心です。

安心の学習フォロー・
就職サポート

学習期間中の質問制度をはじめ、様々な角度からみなさんをサポートします。また、就職活動に不安のある方も、年間を通して必要な時期に就職対策を実施し、就職に必要な情報やスキルを身につけることができますので、安心です。

●学習フォロー P04 ●就職サポート P07

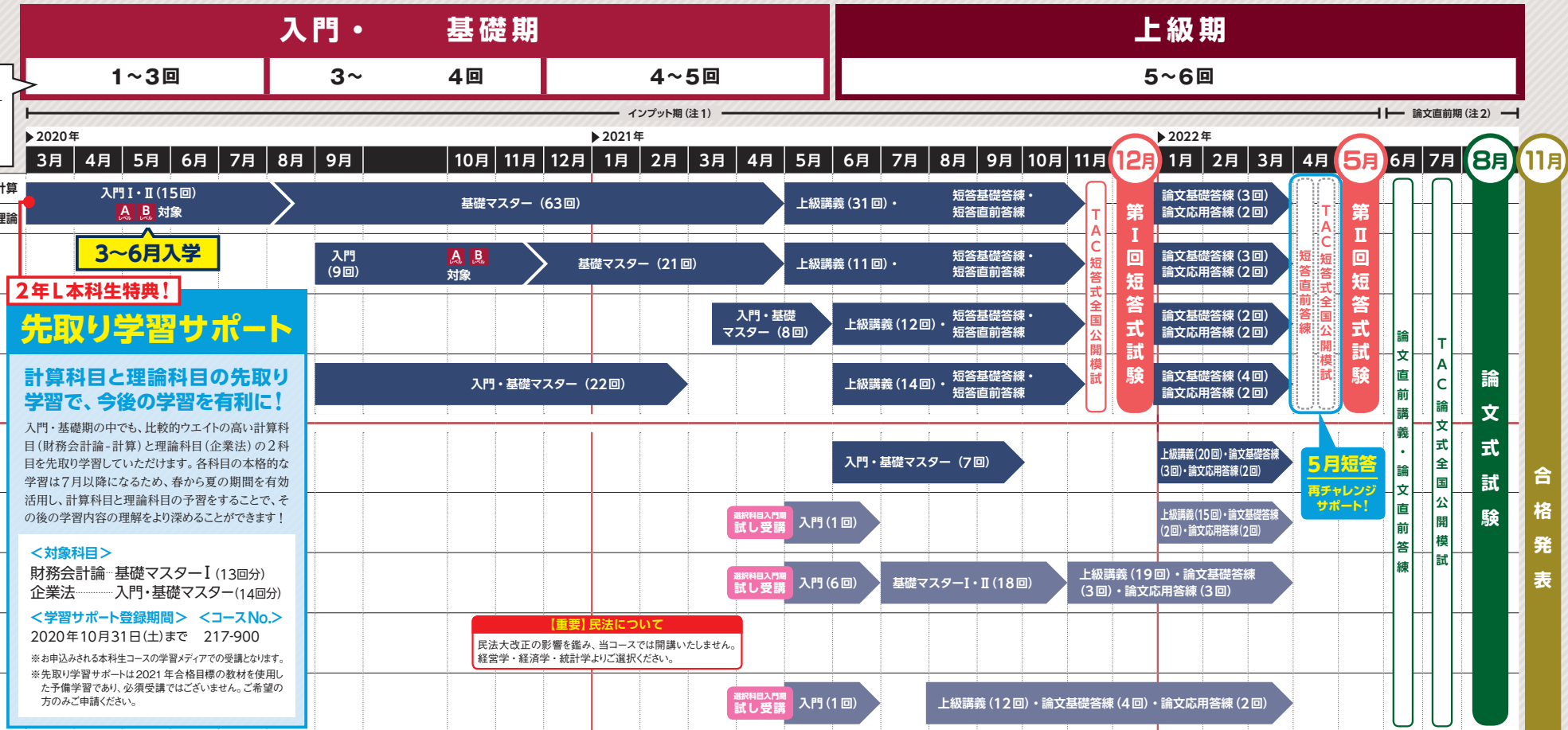
カリキュラム
Curriculum

一週間あたりの講義数(概算)

講義時間：3時間

※科目・時期・内容により異なる場合もございます。

必須科目	短答式試験科目	財務会計論
		管理会計論
		監査論
		企業法
		租税法
		経営学
選択科目	論文式試験科目	経済学
		民法
		統計学



選択科目入門
試し受講

入門期の講義を試し受講できます。

全学習メディア対象

学習フォロー ●質問・相談コーナー ●個別成績相談 ●WEB個人別成績表 ●デジタル教材 ●音声DLフォロー ●受講生Webサイト

就職サポート ●就職・進路相談室 ●監査法人就職対策講義 ●監査法人面接対策 ●TACプロフェッションバンクの就職・転職支援

学習過程で 日商簿記検定3・2・1級や税理士試験 簿記論・財務諸表論にもチャレンジできます！

受講料


●受講料・コースNo.一覧 P26 ●簿記のスタートレベル(A～Dレベル) P25 ●申込方法 P31

分割払いについて

トータル受講料は、「分割払い」よりも「一括払い」の方がお安くなります。分割払いでお申込みの場合には、P39「分割払いに関する注意事項」を必ずご確認ください。

※0から始まる会員番号をお持ちでない方は、受講料のほかに別途入会金(¥10,000・消費税込)が必要です。会員番号につきましては、TAC各校またはカスタマーセンター(0120-509-117)までお問い合わせください。

※下記受講料は教材費・消費税10%が含まれます。

 簿記・会計初学者の方	▶ 財務・入門Ⅰから学習開始		開講時期	2020年3月以降順次		
学習メディア	一括払い受講料		分割払い受講料			
	通常受講料	大学生協割引受講料	通常受講料	大学生協割引受講料	通常受講料	大学生協割引受講料
■ 教室講座	¥760,000	¥722,000	¥430,000	¥408,500	¥357,000	¥339,150
	¥790,000	¥750,500	¥460,000	¥437,000		
■ ビデオブース講座	¥780,000	¥741,000	¥450,000	¥427,500	¥406,000	¥385,700
	¥850,000	¥807,500	¥490,000	¥465,500		
■ 教室+Web講座	¥760,000	¥722,000	¥430,000	¥408,500	¥357,000	¥339,150
	¥790,000	¥750,500	¥460,000	¥437,000		
■ Web通信講座	¥820,000	¥779,000	¥460,000	¥437,000	¥406,000	¥385,700
	¥850,000	¥807,500	¥490,000	¥465,500		
■ DVD通信講座	¥820,000	¥779,000	¥460,000	¥437,000	¥406,000	¥385,700
	¥850,000	¥807,500	¥490,000	¥465,500		

<div>B レベル</div>	日商簿記検定3級合格レベルの方		開講時期	2020年6月以降順次		
	▶財務・入門Ⅰを省略して学習開始					
学習メディア	一括払い受講料		分割払い受講料			
	通常受講料	大学生協割引受講料	通常受講料	大学生協割引受講料	通常受講料	大学生協割引受講料
■教室講座	価格 ¥755,000	¥717,250	¥425,000	¥403,750	¥357,000	¥339,150
■ビデオブース講座	¥785,000	¥745,750	¥455,000	¥432,250		
■教室+Web講座	価格 ¥775,000	¥736,250	¥445,000	¥422,750	¥406,000	¥385,750
■ビデオブース+Web講座	¥845,000	¥802,750	¥485,000	¥460,750		
■Web通信講座	価格 ¥755,000	¥717,250	¥425,000	¥403,750	¥357,000	¥339,150
	¥785,000	¥745,750	¥455,000	¥432,250		
■DVD通信講座	価格 ¥815,000	¥774,250	¥455,000	¥432,250	¥406,000	¥385,750
	¥845,000	¥802,750	¥485,000	¥460,750		

申込開始日 2020年2月19日(水) ★春割キャンペーン実施中！

全学習メディアにデジタル教材・音声DLフォロー標準装備！

通学メディア		通信メディア	
教室講座	ビデオブース講座	Web通信講座	DVD通信講座
2020年3月開講予定	2020年3月開講予定	2020年4月中旬配信開始予定	2020年4月中旬発送開始予定

講義日程は右記の「TACの講義日程」にて順次公表します。なお、開講月・地区・クラスにより、ビデオブース講義となる場合がございます。

以後、教室講義日程に準じて配信します。

以後、1ヵ月に2回程度、約2週間おきに教材を発送します。

開講校舎

- 札幌校 ●日吉校 ●なんば校
- 仙台校 ●八重洲校 ●神戸校
- 水道橋校 ●立川校 ●広島校
- 新宿校 ●中大駅前校 ●名古屋校
- 早稲田校 ●町田校 ●京都校
- 池袋校 ●横浜校 ●梅田校

※提携校での開講状況は直接校舎までお問い合わせください。

講義日程は
コチラ



web.tac-school.co.jp
/cpa_nittei

学習
メ
デ
ィ
ア

フ
ォ
ロ
ー
制
度

コ
ー
ス
ガ
イ
ド

受
講
料
・
申
込
み

合格実績

TACの強み

7つの強み

合格者講師

会計士の魅力

試験制度

必須科目

計算理論

財務会計論【会計学★】

計算（簿記）

簿記とは、企業の日々の経営活動を記録・計算し、株主・取引先・銀行等の利害関係者にその財政状態や経営成績を決算書類を用いて報告するための手続です。

理論（財務諸表論）

計算（簿記）で学習する会計処理は、「企業会計原則」等の会計基準に基づいて行われます。理論（財務諸表論）では、会計基準の内容及び理論的背景、さらには理論的な対立等会計理論について学びます。

計算理論

管理会計論【会計学★】

企業経営においては、経営者が将来の企業のあり方を計画したり、その成果が期待通りに進んでいるかを管理するための情報も必要です。管理会計論では、このような情報の収集・分析・報告を行うための、原価計算を中心とした会計システムについて学習します。

理論

監査論

そもそも公認会計士という資格は、大企業が公表する決算書に「お墨付き」を与える業務である財務諸表監査を担うのにふさわしい者に与えられる資格として誕生しています。監査論では、公認会計士が備えるべき価値観を含め、財務諸表監査にまつわる様々なルールの内容や背景について扱います。

理論

企業法

「企業法」という科目の中心は会社法です。会社法は、企業の組織・運営・活動等、企業を巡る様々な関係を規律する法律です。この中で特に重要なのは株式会社に関する規定で、主に株式会社の設立・運営から消滅に至るまでの諸規定を学習します。また、商法と金融商品取引法等も出題範囲に含まれます。

TACからのワンポイントアドバイス

★論文式試験では、財務会計論と管理会計論をあわせて「会計学」として出題されます。

計算（簿記）

解答できたか否かだけでなく、現在処理していることが簿記一巡の中でどのような意味があるのかを再確認することが重要です。

理論（財務諸表論）

学習した内容を記憶する作業を継続的に行いましょう。計算の答練を復習した後に、同じ範囲の理論について復習をすることも効果的です。

TACからのワンポイントアドバイス

まずは計算方法をマスターし、それから関係する理論を押さえるようにしましょう。試験委員特有の論点の学習は、今までに学習した内容との関連を意識しながら行うのが効果的です。

TACからのワンポイントアドバイス

入門・基礎期は専門用語や言い回しに促わらず、ルールの一つ一つについて、その意味やなぜ必要なのかを噛み砕いて理解することに力を入れましょう。

TACからのワンポイントアドバイス

まずは、法律特有の言い回しに慣れましょう。学習初期に、条文や立法趣旨・要件・効果等の骨組みを押さえることが大事です。特に条文には力を入れましょう。

TACからのワンポイントアドバイス

幅広い分野からの基礎的概念の出題とされていますが、会計との関連性が深い分野も多く見られますので、会計を攻略することが、租税法攻略につながると言えるでしょう。

選択科目（論文式試験では、以下の4科目から1科目を選んで受験します）

計算理論

経営学

企業及び企業経営のあり方を研究する学問で、経営戦略論、モチベーション理論、リーダーシップ論、コーポレート・ガバナンス論、ファイナンス理論等、幅広いテーマを研究対象とします。時事的な問題が取り上げられることも多く、企業の最新動向に常に関心を払っておくことが大切です。

TACからのワンポイントアドバイス

基本的な論点を広く浅く押さえ、効率的な学習を心掛けましょう。ファイナンス理論は、経営学の中では比較的差がつきやすい分野ですから、対策は重要です。

計算

経済学

経済学は、企業や消費者の経済行動や、個々の財・サービスの需給に対する分析を行うミクロ経済学と、一国の経済全体または世界経済全体を分析するマクロ経済学に大別されます。分析は、現実経済をモデル化して行われます。

TACからのワンポイントアドバイス

非常に体系化された学問なので基礎をしっかり身につけましょう。練習問題を解くことが重要な学問です。特にミクロ経済学の計算問題は、定期的に復習するようにしましょう。

理論

民法

民法では、売買契約等の私法が日常行う行為を規律する法律を学習します。学習の目的は、条文の解釈や学説の対立点を理解することです。

【重要】民法で受験をご検討されている皆様へ

この度の民法大改正に伴い、学習面・実務面への大きな影響が今後予想されるため、他の選択科目での受験を推奨いたします。TACでは当面の間、民法の開講を見送りさせていただきます。（民法の科目免除をお持ちの方は、科目免除者としての登録は可能です）

TACからのワンポイントアドバイス

論点が問題となる典型的な事例や、その問題の所在・自説・理由づけを暗記しましょう。常に条文を引き、該当する箇所に何が書かれているのか等を把握することが重要です。

計算

統計学

統計学では、データ解析やファイナンス理論に必要な記述統計、確率、推測統計、相関・回帰分析等に関して、データを用いた計算方法や確率を利用した統計的評価方法を学習します。

TACからのワンポイントアドバイス

本試験では「高校文系数学」のレベルで対応できる出題が続いています。「中学数学」を理解できる方であれば、12月短答後にスタートしても合格水準への到達が可能です。

論文式試験科目

必見！選択科目の選び方

論文式試験では、選択科目4科目から1科目を選んで受験することになります。下に記載する各科目のメリット・デメリットや、学習量を基準にしてご自身に合う科目を選択してください。

	メリット	デメリット
経営学	学習量は他の科目の6割程度。試験委員の研究領域からの出題が多く見られるため、そこを中心とした学習で短期攻略が可能です。	ファイナンス理論は、経済学ほどではありませんが、ある程度の数学的知識が必要です。数学が苦手な方にとっては、その点がデメリットと言えます。
経済学	数学的素養（特に微分）が一部求められますが、パターンを身につければ得点源となります。また、計算問題がメインのため、満点を狙うことができます。	数学的素養がなくても学習できる範囲が増えてはいますが、微分や2次関数が苦手な方にとっては難解な科目となるでしょう。
民法	企業法の勉強が役立ちます。また、半分は基本的な出題ですから、合格点は確保できる科目です。	学習量が多く、暗記が必要なので、地道な学習が必要です。大改正の影響から選択は得策ではありません。論述科目のため、高得点は取りにくいと言えます。
統計学	統計学は暗記量が少ないため、数学が得意な方にとっては、短期間で試験対策できる科目です。	問題を解く際に基礎事項を応用させる力が必要となります。応用問題よりも暗記重視型の問題の方が得意という方には不向きな科目と言えます。

TACなら

選択科目入門期
試し受講

選択科目は学習開始時に選んでいただきますが、悩んでいる方や実際に講義を受けてから決めたいという方のために、TACでは入門期に他の選択科目を受講することもできます。実際の講義に触れ、ご自身に合った科目を選ぶことができます。

※ご利用方法の詳細は、お申込み後にお渡しする「受講ガイド」をご覧ください。

選択科目を迷われている方に朗報です！

合格実績

TACの強み

7つの強み

合格者講師

会計士の魅力

試験制度

オリエンテーションレジュメ

～ようこそ 公認会計士のフィールドへ～

公認会計士試験における財務会計論

公認会計士試験制度自体についての詳細な内容はパンフレット等を参照して頂くこととしまして、以下、財務会計論に関することを述べていきます。

Ⅰ. 短答式試験

1. 財務会計論

公認会計士試験は、短答式試験と論文式試験の二段階選抜となります。短答式試験の合格者のみが論文式試験を受けられますので、まずは短答式試験に合格しなければなりません。

短答式試験は以下の4科目が試験科目となります。

- ① 財務会計論 ② 管理会計論 ③ 監査論 ④ 企業法

財務会計論は「簿記、財務諸表論、その他企業等の外部利害関係者の経済的意思決定に役立つ情報を提供することを目的とする会計の理論」と位置付けられています。つまり、財務会計論は「主として財務諸表を作成するための理論と手法について出題される科目」です。

TACの公認会計士講座では、入門及び基礎マスターにおいて、財務会計論における計算的な側面（以下、簿記と言います）を中心に学習します。なお、基礎マスターの最後には簿記だけではなく理論的な側面（以下、財務諸表論と言います）の学習もスタートします。

2. 試験内容

短答式試験において、財務会計論は「試験時間 120分、出題数40問以内、配点 200点」、他の短答式3科目は「試験時間60分、出題数20問以内、配点 100点」です。財務会計論は他の3科目より配点が2倍となりますので、重要性が高い科目といえます。短答式試験は4科目の総点数で合否判定が行われますが、中でも財務会計論はその比重が高い（200点÷500点＝全体の4割）ことから、財務会計論を得意科目にすることが短答式試験の合格に近づく第一歩です。「**財務会計論を制する者が短答式試験を制する**」と言っても過言ではありません。

財務会計論の出題については、各分野・各論点から満遍なく出題されます。したがって、入門期から一つ一つの論点をしっかり理解することが大切です。

II. 論文式試験

1. 会計学

短答式試験に合格しますと、次に論文式試験を受験します。論文式試験は年に1回（8月）に実施され、以下の5科目が試験科目となります。

- ① 会計学 ② 監査論 ③ 企業法 ④ 租税法 ⑤ 選択科目

会計学は「財務会計論及び管理会計論」ですので、「財務会計論」は「会計学」に含まれます。

2. 試験内容

論文式試験において、会計学は「試験時間 300分、出題数大問5問、配点 300点」、他の論文式4科目は「試験時間 120分、出題数大問2問、配点 100点」となっています。会計学は他の4科目より配点が3倍となり、また、会計学のうち財務会計論は「試験時間 180分、出題数大問3問、配点 200点」と約7割の比重ですので、財務会計論は論文式試験においても重要性が高い科目といえます。科目合格をしていない場合には、論文式試験は5科目の総点数で合否判定が行われますが、その中でも比重が高い（200点÷700点＝全体の約3割）ことから、「**財務会計論を制する者が論文式試験を制する**」、つまり、「**財務会計論を制する者が公認会計士試験を制する**」のです。

簿記の学び方

1. 簿記の勉強方法

1. 講義について

公認会計士試験の短期合格を目指して、TAC独自のノウハウを駆使して作り上げられたカリキュラムに従って、講義を進めていきます。したがって、財務会計論を得意にするためには、まずは、講義についていくことが大切です。講義は休まず、必ず出席して下さい。

そして、講義内容をしっかり復習し、学習した内容をマスターすることが、本試験で高得点を獲得することに繋がります。したがって、講義に出席した後に復習をしっかりと行うことが重要です。

2. 復習について

以下のように学習を進めて下さい。

- (1) まず、講義で学習した各論点を理解するために、簿記一巡の手続を意識しながら、各処理方法を一つ一つ丁寧に覚えて下さい。その際にはただ暗記するのではなく、何故、その処理が行われるのか、といった処理の意味を考えると良いでしょう。
- (2) 次に、処理方法を理解したら、テキストの設例、基本例題やトレーニングを用いながら、問題を解いて下さい。問題演習を通じて、各論点の出題パターンや解答技法をマスターします。
- (3) 最後に、同じ問題を繰り返し解いて、問題を見ただけで処理方法及び解き方が頭に浮かび、解答のイメージが湧くようにして下さい。そうすれば自ずと解答時間も短縮するでしょう。そのために、各問題は「最低3回」は解いて下さい。
- (4) 復習を進める度に「復習管理表」に復習した日付を記入して下さい。「復習管理表」は復習の進捗状況を一覧できる表です。①講義後から次回講義まで②実力テストまで③上級までの3段階に分けて効果的に復習を進められるようになっていますので、自身の復習の目安に用いて下さい。なお、時間を空けてテキストの設例、基本例題やトレーニングの問題を解く際に、まずはテキストの該当範囲の内容を予め読むことなく解いてみてください。以前に学習した内容を思い出しながらかくことで、知識が定着していきます。内容を思い出せず問題が解けない場合はテキストの内容に戻って、忘れている箇所を確認して下さい。
- (5) 講義をより効率的に受けられるよう、学習進度表に「事前復習論点」を記載しています。事前復習論点はその回の講義において、前回の講義内容以外で特に復習が必要な論点になりますので、事前に復習した上で講義を受けるようにして下さい。

公認会計士試験に合格するためには、徹底した問題練習が必要であることを自覚し、しっかりと復習を行って下さい。

Ⅱ．入門・基礎期の学習内容

1. 入 門

入門では簿記の基礎を学習します。内容的には比較的簡単な論点が多いのですが、入門でしっかり学習することが、基礎マスターや上級に繋がっていきますので、気を抜かず、一つ一つの論点をしっかりマスターして下さい。

入門の内容は、初めて簿記を学習する方を想定した学習内容となっております。なお、日商簿記との兼ね合いとしては、入門Ⅰが日商簿記３級の範囲すべて、入門Ⅱが日商簿記２級の範囲の一部を学習する内容となっております。

2. 基礎マスター（BM：ベーシック・マスター）

基礎マスターでは、簿記について難解な論点や特殊な論点を除いたほぼ全分野を学習します。基礎マスターで学習する各論点は、そのまま本試験に出題される可能性が高い論点ばかりですので、非常に重要です。また、内容的にも入門より難しい内容となりますので、講義を受けるだけでなく、しっかり復習することが大切です。

Ⅲ．上級期の学習内容

上級期では、入門・基礎期で学習するには難解であったり特殊な論点、又は横断的な論点を学習します。また、新しい会計制度が設けられた場合には随時、新しい論点を学習していきます。なお、上級期では短答式及び論文式本試験を想定したアウトプット・トレーニング（問題演習）を多く取り入れています。問題演習を通じて、短答式の問題や総合問題の解法を学習するとともに、試験における時間配分等を身につけて、本試験において合格点を獲得する実力を付けていきます。

入門Ⅰの学習内容など

Ⅰ. テキストの学習内容・利用方法

1. 本コースの狙い

入門Ⅰでは、簿記を初めて学習する人を対象として、平易な取引を通して簿記一巡の手続をマスターすることを目的としています。したがって、学習に際してはまず個々の取引の処理を覚え、次にそれらを簿記一巡の手続の中で捉えていくことが大切です。なお、入門Ⅰは日商簿記３級の試験範囲を網羅していますので、本コースをマスターすれば日商簿記３級を合格できる内容となっております。

2. テキストとトレーニングの使用方法について

- (1) まず、テキストを読んで個々の取引の処理方法をマスターして下さい。理解できたならば、次に、トレーニングに挑戦します。テキストの設例、基本例題は解答・解説を見ながら解いて結構ですが、トレーニングの問題はできる限り独力で解いて下さい。そして、トレーニングで分からない箇所はテキストに戻って復習して下さい。
- (2) トレーニングはテキストの確認と練習のための問題ですが、その中にはテキストの問題よりも少し難しい応用問題があります。しかし、少し考えれば解ける問題となっておりますので、頑張って挑戦して下さい。

3. 簿記を初めて学習する方へ

まず、簿記とはどのようなものか、どのような処理を行うか、ということに慣れて下さい。その際に、頭で考えるよりも実際にペンを取って記帳しながら「体で覚える」ことが大切です。また、学習に際しては先入観を持たずに、あるがままをそのまま受け入れるという「素直な学習態度」も必要です。

4. 簿記を少し学習した方へ

頭の中では分かっていると思っていても、実際にペンを取って解いて下さい。そして、仕訳ができたならば「仕訳の意味するところ」を考えて下さい。また、できる限り仕訳をしないで済む方法を見つけて下さい。このようにすることによってスピードアップできます。

II. ミニテスト

1. ミニテスト

ミニテストは前回の講義で最低限マスターしていただきたい論点について10分～20分程度の小問形式で実施する知識確認テストです。ミニテストができれば講義についてこれている証拠ですから、毎回ミニテストで満点をとることを目標に復習して下さい。

ミニテストはその時点での皆さんの理解度を測るものです。仮に思うようにできなくても、どの論点が理解できていないのかを知り、その論点を復習してマスターすることが皆さんの実力をアップさせることになります。したがって、ミニテストは出来不出来に関係なく、必ず毎回受け、必ず毎回提出して下さい。

2. 実力テスト

ミニテストが最低限の知識の確認であるのに対して、実力テストは「今までの学習の総まとめ＋問題練習」のテストです。つまり、実力テストの内容は今までに学習した論点がまんべんなく入っていますし、レベルもトレーニングより難しい応用問題となります。

したがって、満点をとることは難しいかもしれませんが、7割程度はとることを目標にして受けて下さい。なお、実力テストは各コースの完成問題の一つでもあります。

III. 参考（その他の問題演習など）

1. パワーアップ問題

上記のミニテストや実力テストの他に、基礎マスターにおいては、通常講義とは別に総合問題形式の「パワーアップ問題」演習があります。各單元における重要論点を、総合問題形式で定期的に出題していく予定です。やや難易度の高い問題もありますが、忘れずに受講するようにして下さい。

2. アクセス答練



上級期において、短答式試験及び論文式試験の計算問題対策として、アクセス答練を実施します。基礎期および上級期に学習した内容を網羅的に再確認する趣旨になります。校舎によりますが、主に早朝に実施する予定です。必ず受講しましょう。

3. 短答答練・論文答練

上級期において、本試験と同様の形式（短答式2時間、論文式3時間）の答練を実施します。計算と理論を合わせた形式での出題です。本試験における時間配分の練習にもなりますので、必ず受講しましょう。

4. 電卓を用意する

(1) 簿記を学ぶ上で電卓は必需品です。そこで、試験に向いている電卓の条件を挙げておきます。

- ① 12桁の計算ができること
- ② 太陽電池で動くこと（電池切れの心配がないこと）
- ③ メモリー機能があること
- ④  キー，又は， キーがついていること
- ⑤ ルート（ $\sqrt{\quad}$ ）機能があること
- ⑥ 手にあった大きさであること（一般の電卓より大きめが良いでしょう）

これらの条件は絶対的なものではありませんが，特別な理由のない限り，条件を満たす電卓を用意するのが良いでしょう。なお，条件に適した電卓をT A C受付にて割安で販売しております。まだ用意されていない方はT A C受付にて購入することをお勧めします。

(2) 参 考（公認会計士本試験規定）

試験場においては，算盤及び以下①～⑥の基準の全てを満たす電卓の持込使用を認めています。

- ① 電源内蔵式で，音（音階，音声等）を発しないもの
- ② 数値を表示する部分がおおむね水平であり，表示部が周りの受験者に見えない程度のもの
- ③ 外形寸法がおおむね縦20cm×横20cm×高さ5cmを超えないもの
- ④ ケースやカバーが付いていないもの（ケースやカバーは取り外すこと）
- ⑤ 計算機能以外の機能を有しないもの
- ⑥ 以下ア～エに掲げる機能を有しないもの

ア プログラム入力・記憶機能

イ 関数電卓機能

ウ 紙に記録する機能

エ 漢字・カナ・英字入力機能

（注）例えば，以下の機能については，上記ア～エの機能に該当しないため，試験場での使用は可能です。

- ・ GT, C, AC, MC, MR, M+, M-, MU, MD, RV, $\sqrt{\quad}$, %などのキー
- ・ 税計算機能（税込，税抜計算ができる機能）
- ・ 日数計算機能（期間計算や期日計算ができる機能）
- ・ 時間計算機能（時・分・秒の加減乗除ができる機能）
- ・ 換算機能（通貨，単位など任意の換算レートを設定して換算できる機能）
- ・ カウンター付演算状態表示機能（入力件数の多い計算でも入力した数値の個数や演算状態の表示により計算過程の確認が一目でできる機能）
- ・ アンサーチェック（検算）機能（1回前の計算結果と答えを自動的に照合できる機能）
- ・ キーロールオーバー（早打ち）機能（先に押したキーから指を離す前に次のキーを押しても入力を受け付ける機能）
- ・ 計算続行機能（計算の中断で消えた画面を再表示する機能）
- ・ オートレビュー機能（自動的に計算過程の確認と訂正ができる機能）

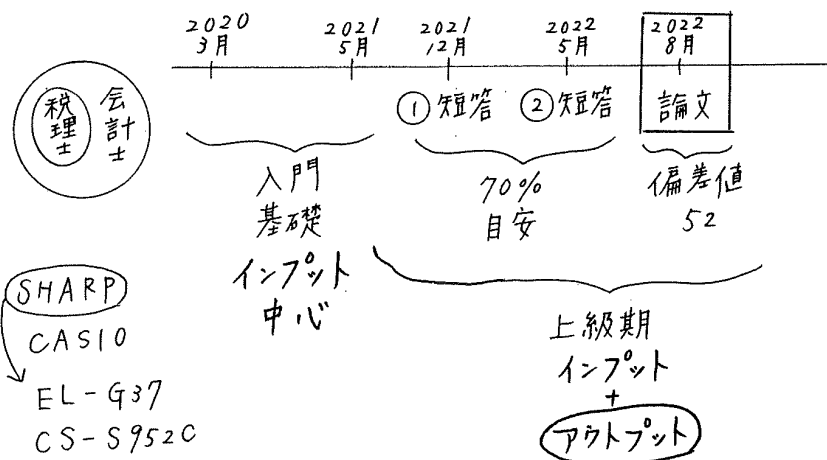
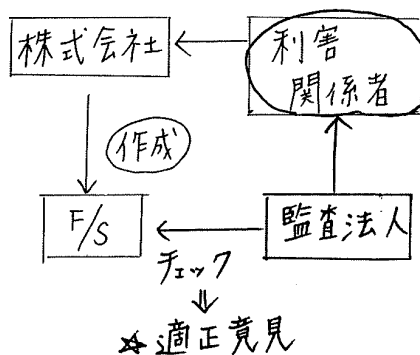
公認会計士	講義録	コース講義等	入門・基礎	科目	オリエンテーション	回数	
-------	-----	--------	-------	----	-----------	----	--

配布物	★テスト類： []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒板内容

1. 安定性
 2. 将来性
 3. 社会的地位
 - ★ 4. 高収入
- Financial Statement

仕訳



公認会計士	講義録	コース講義等	入門・基礎	科目	オリエンテーション	回数	
-------	-----	--------	-------	----	-----------	----	--

配布物	★テスト類： []	講師	小野 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容	
<p>論 { 短 { 財会 { 簿記 () 財表 管理 監査 企業 租税 経営① 経済③ 民法④ 統計② } } } 会計 { 計 理 計 理 理 計 理 計 理 計 理 }</p> <p>選択 1つ { }</p>	